

定期テストの時期になりました。「勉強しなさい」とつい言いたくなりますが、言うとは余計に反発して勉強しなくなるし、かといって言わないと勉強する様子もない…。「このままで大丈夫？」と、子どもの成績について不安を抱えておられる人も多いのではないのでしょうか？「個別指導キャンパス」では長年にわたる教育現場で培ったノウハウを生かし、子どものモチベーションを高めて成績アップ・志望校合格に導いています。代表の福盛訓之さんに、子どもの接し方をお聞きしました。

(聞き手は上部武宏)

子どもとの コミュニケーション について



「生徒一人一人に合わせたオーダーメイドカリキュラムを作成し、集中的に強化します」と話す福盛代表

個別指導キャンパス 代表・福盛訓之さん

お問い合わせ先: (0120) 934830

「個別指導キャンパス」では、指導時にどのようなことを意識して、生徒と接しているのでしょうか。

お子さまのモチベーションを高め、やる気にさせることを大切にしています。「小さな成長」に講師が気づき、ほめて伸ばします。こうした積み重ねで、生徒のやる気と成績のアップを実現させています。

「家庭では、どのようにほめれば良いのでしょうか」

「テストの点数が少しでも上がっていた」「家で勉強する習慣がついてきた」「学校

のことや塾のことを自分から話してくれるようになった」「些細なことでもそんな変化があった時は、まずはほめることを意識してください。」

特に勉強が苦手なお子さまは、自信を持っていないことが多いので、親が子どもの成長を喜ぶことが成功体験になります。そして、さらに頑張ろうと思えるのです。

「わが子のことを思うあまり、つい厳しく評価してしまいう保護者も多いようです。どのように心掛けると良いでしょうか。」

確かに、親はなかなかわが子の成果を認めず、「アラ探

し」をして厳しい評価をしてしまいう傾向にあるようです。

例えば、1教科だけ下がってほかの教科はそうでなくても、親の評価は「下がった」もしくは、良くて「トント」といことがあります。全教科をパーフェクトに上げない限り認めてもらえないのは、頑張っている子どもにとってつらいことです。

ついついわが子には思い込みが強くなりがちなのです。あえて客観的に見つめ、良い部分も見つけてあげて「積極的にほめる」ということを心掛けると良いです。親から認められることは子どものモチベーションには不可欠だと考えています。